

指導者用資料 中期（5～7年生）用

小学5年～中学1年生

（1）指導のねらい

- ① 自転車を利用する上での交通ルールを知り、常に危険を予知しながら運転する意識を高める。
- ② 被害者の声をもとに、周囲の人の思いに触れ、自分や他者の命を守る意識を高める。

（2）指導案

① 導入

- ・ 大阪府箕面市で実際に起こった自転車事故をもとに作成した教材であることを紹介。

② 展開

- ・ 学習のめあてを提示。
自転車を安全に利用するにはどうすれば良いかを考える。
- ・ 映像を鑑賞する。
時間切れとなり、リッチーが説諭し、扉が閉まったシーンで映像を止める。
発問「主人公は、どのように自転車を運転すべきだったのか」
（意見を交流）
発問「あなたは事故を見たこと、事故に遭ったこと経験はあるか」
（発表）
- ・ 映像の続きを最後まで鑑賞する。
ナレーションを聞き、子どもを亡くした親の思いを知る。
発問「あなたは被害者の母親の手記を聞いて、どう感じたか」

③ まとめ

- ・ 加害となるケースが増える年齢段階を考慮して、交通ルールを守ることが、他者の命を尊重することにもつながること。
- ・ 命はかけがえのないものであり、加害者であれ、被害者であれ、交通事故が周囲の人を深く悲しませることを伝える。